

ハウス被覆材の経年劣化は収量に影響します！

いよいよ年の瀬を迎えることとなりましたが、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、今年はどうな年だったでしょうか。もう来年はどう展開していくかの検討をされているかも知れません。そんな一助になればとハウス被覆材劣化と収量の相関についてご紹介させていただきます。愛知県のみつば栽培農家(約500坪)の事例ですが、このところの天候不順もあるが、どうも収量が上がらない！一度データで検証してみようという取り組みでしたが、結論は「被覆材(ユーピロン)の経年劣化による収量低下」でした。

表にユーピロンの経過年数、5月、10月、11月の単月出荷箱数を、これをグラフ化したものも示しました。このデータからいくつかの事が見えてきます。

この農家は5年前に中間移植機を導入されていますが、その効果は20%強の収量増となっている。

冬季は収量が落ち込む。その落ち込みはピーク時(5月)に比較して20～

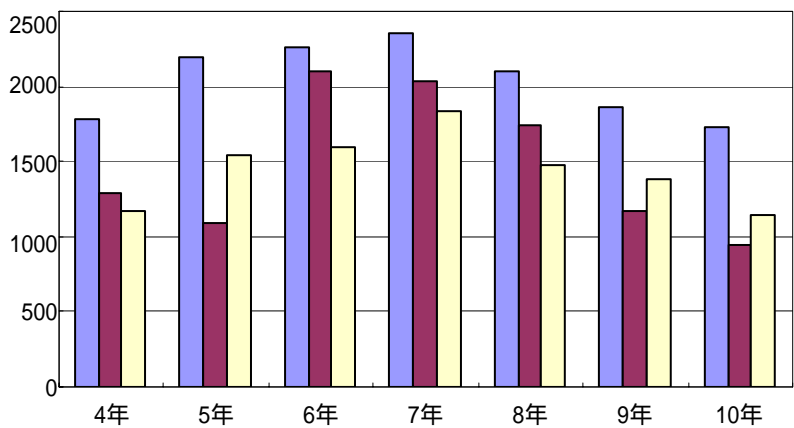
30%にもなる。

ユーピロン経過年数7年を越えると収量は毎年10%強減少していく。

データ整理することで、何でこうなっているのが理解できて直ちに張替工事を決断されました。写真1は張替前(11月)のもの、写真2が張替後(12月)のもですが、張替後は骨格がくっきりと見えて

いるのがわかります。光と温度が植物の生育にとって大事であるとは理解していてもここまではっきりとデータに現れるとは思っていなかった。小金を惜しんで大金を逃がしていたと苦笑いながら語っていただきました。人ごとではないと考えさせられる話でした。

(企画室 小倉東一)



被覆材年数	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年
5月出荷箱数	1,777	2,200	2,256	2,358	2,095	1,858	1,724
10月出荷箱数	1,290	1,085	2,105	2,040	1,745	1,164	940
11月出荷箱数	1,170	1,545	1,600	1,835	1,475	1,384	1,150

